

令和7年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会

第2回幹事会 議事要旨

■日時:令和7年12月22日(月)13:00~15:00

■場所:新ひだか町地域交流センターピュアプラザ 多目的室(Web 会議システム併用)

■議事概要

1.開会(司会:北海道地方環境事務所国立公園課長 尼子)

2.議事

(1)報告事項

1)北海道地方環境事務所からの報告事項

・報告資料1について、事務局より説明。

<質疑等> ※→:事務局 ⇒資料提供者

○「インタープリテーション」とあるが、あえてカタカナ語で表記する必要があるのか。説明や配慮が必要ではないか。日本語で表記すべきではないか。

→「インタープリテーション」は、現状日本語に直訳できる言葉がない。近い概念としては「自然解説」だが、ただ自然を解説するだけではない。歴史や文化なども対象とする上、その背後にある意味を明らかにし、個人の経験と照らした発見を促し、行動変容につなげることも含む概念である。

→「インタープリテーション全体計画」とは何かの補足が必要という指摘と受け止めた。地域の魅力や価値を分かりやすい言葉で伝えるコミュニケーションツール・対話の手段として使いたい。なお名称は、地域の人が親しみやすいものにしたいと考えている。

2)各構成員からの報告事項について

(ア)日高北部森林管理署管内の入林者名簿記載者数(日高北部森林管理署)

・報告資料2について、日高北部森林管理署より説明。

⇒令和7年11月30日現在の日高北部森林管理署管内登山口の入林者名簿記載者数の速報値である。来年度はじめ頃に、最終確定版の情報を提供する予定。

(イ)ロングトレイル事業進捗報告(北海道運輸局)

・北海道運輸局より説明。

○説明のあった広域連携全般をテーマとした会合と、日高山脈襟裳十勝国立公園協議会との関係性について、考えを伺いたい。

⇒将来的に日高山脈襟裳十勝国立公園協議会の部会に位置付けることも考えられるが、現時点では別の会合として活動を開始する。今後の連携方法は、会合の状況を見ながら考えていきたい。

○日高トレイルデイズの実施状況についてはどうか。

⇒昨年度は国の補助事業で実施し、今年度は地域交付金も活用した。雨で来場者は少なかったが、自然環境保全に資する寄付金を得られた。

○過去にロングトレイル・フットパス事業があったと記憶しているが、現状は。

⇒北海道では長距離自然歩道の計画はあるが、整備が進まず未実施のものが多
い。道東の北根室ランチウェイは閉鎖している。昨年は、新たに北海道東トレイルが開
通し、数人が全線踏破している。

○ロングトレイルは部分的に歩いても楽しめるか。景観の魅力はどうか。

⇒区間ごとに様々なレベルで楽しめる。長い道の一部を歩くことも魅力的で集客効
果がある。景観は北海道らしさがあり、特に道外の人に好評だった。なお、海外では
「ハイキング＝長距離を歩く」という認識が強く、継続性のあるルートが重要である。

○ロングトレイルは十勝側での調査・展開の予定はあるか。

⇒次年度に広尾町～清水町間を調査予定である。今年度は机上(地図上)での検討
を進めている。

○日高山脈のブランド化・収益化についての考えを聞きたい。

⇒収益化は地域外から来る者にも環境保全に貢献してもらうために必要なことと考
える。観光収益を環境保全に還元する仕組みは世界的にも重要である。

○ロングトレイルの整備による環境負荷が懸念される。

⇒基本は既存の道を利用する。新規整備は現実的ではない。必要に応じて地域と協
議し、草刈りなどの最小限の整備を検討する。環境保全への貢献が肝であり、整備す
る場合には環境負荷の状況をモニタリングすることが重要であると考えている。

○林道は一般の通行を前提とした道ではないため、調査前に関係する森林管理署と
事前調整を行う事を要請する。

⇒対応する。

○インタープリテーション計画との関係性はどうか。

⇒インタープリテーション計画と連動し、地域の資源や魅力、ストーリー(物語)を伝え
ることが重要である。ロングトレイルは地域の物語に触れる旅として親和性が高い。

3.その他

○日高山脈襟裳十勝国立公園協議会の構成員に、アイヌ関係団体が含まれていな
いが、今後の国立公園運営や自然環境保全、文化・歴史の理解のためにも、地域の
アイヌ関係団体を加えて、意見を聞けるよう検討してほしい。

具体的な団体は、北海道アイヌ協会に相談し、幹事会構成員となつていただくのに適

切な団体を判断してもらうのが良いと考える。

→アイヌ関係団体を構成員に加えることについて、他の構成員から御意見ないか。

<異議なし。>

→それでは、事務局から北海道アイヌ協会に相談し、適切な構成員について意見を伺い、次回から参画いただけるよう調整する。

○「夏山登山の5つの心得」について、WEB検索しても国立公園ページに直接アクセスできないので、改善してほしい。

→国立公園のページは全面改修中となっている。本省による全国的な改修が終わり次第、日高山脈襟裳十勝国立公園のページの改善を図りたい。

○先ほどの指摘と関連するが、日高山脈襟裳十勝国立公園のホームページが2つある。関係資料や会議資料が見つげにくいので、改善してほしい。また、「日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン」が掲載されておらず、協議会の構成員や地域の人が見られないのは不適切であると考え。ビジョンを踏まえた管理運営方針作成スケジュールや、登山道整備、ロングトレイルなどの取組との連動について考えを伺いたい。

→ホームページの統合や資料掲載が遅れており申し訳ない。先ほどの改修作業後に早急に対応する。ビジョンの掲載は作業中で、近々掲載できる予定。管理運営方針については、各取組の状況も考慮しつつ、現在事務局で作業中であり、次回御提示できるように対応する。

○レンジャー(自然保護官)の増員について、以前から要望しているが、現状はどうなっているのか。

→日本の国立公園は地域性公園であり、環境省だけで管理するものではなく、協働型管理のため日高山脈襟裳十勝国立公園協議会がある。レンジャーは国家公務員であり、この増員は環境省だけで決められるものではなく、要望はしているが、すぐに配属を増やすことが難しいことはご理解いただきたい。

○市町村等が設置した看板について、環境省が把握している範囲で状況を教えてほしい。

→国立公園内に新たに設置されるものは、許認可手続きを通して把握するが、国立公園外のもの、基本的に把握していない。帯広市が昨夏、国立公園外の十勝幌尻岳登山口に看板を設置したことは承知している。各自治体から情報提供があれば協議会で共有したい。

○環境省で年に1回調査を実施し、看板の設置状況を台帳化して、幹事会で情報共有するのが良いのではないか。

→そのような取り組みも有効だと思うが、網羅的な情報収集には困難が伴う。巡視を通して把握に努めるが、年に1回協議会総会に向けて構成員から取組予定を提出いただいている。そうした情報を整理して共有していければと思うので、各構成員には、今後も情報提供に協力をお願いしたい。

○第3回幹事会は来年3月頃に開催予定である。時間・方法等の詳細が決まり次第、改めてご案内する。

4.閉会